

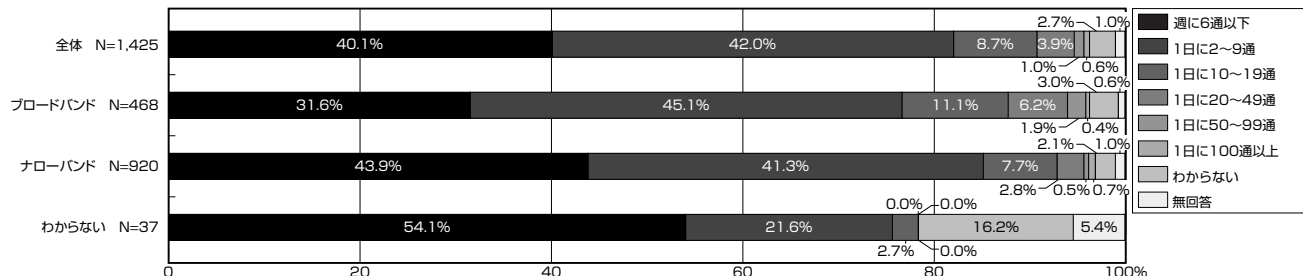
第2章 パソコン利用者

メール

送受信数はブロードバンドで増加

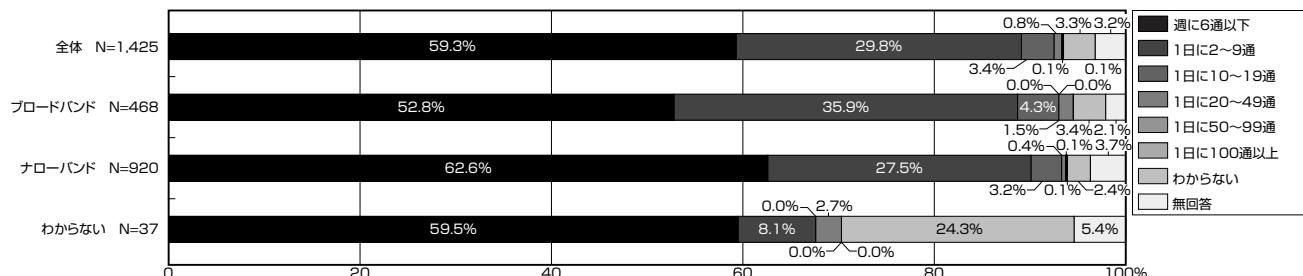
ブロードバンド & ナローバンド

資料1-2-30 ブロードバンド/ナローバンド別 1日当たり平均受信メール数



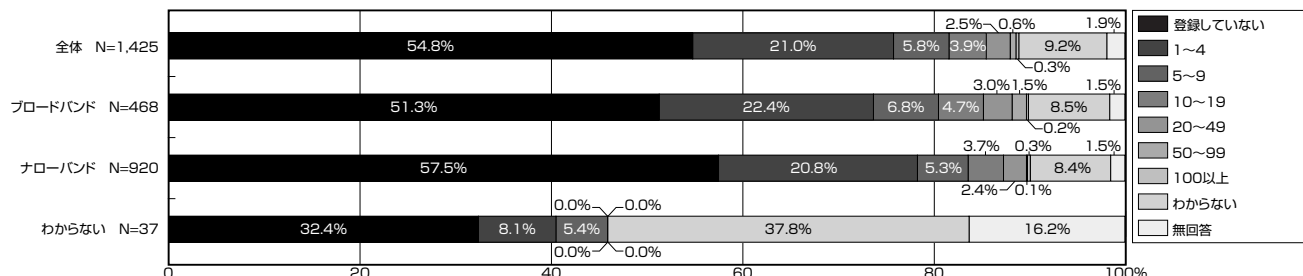
© Access Media/impress,2002

資料1-2-31 ブロードバンド/ナローバンド別 1日当たり平均送信メール数



© Access Media/impress,2002

資料1-2-32 ブロードバンド/ナローバンド別 登録メーリングリスト数



© Access Media/impress,2002

解説

■メール

前述の利用サービス内容でみたように、現在のインターネット利用において電子メールの重要性は例年同様最も高く、その利用率も限りなく100.0%に近づきつつある。

その電子メールの利用状況を利用者全体およびブロードバンド/ナローバンド別でみたのが資料1-2-30~1-2-32である。利用者全体の受信メール数は「週に6通以下」と「1日に2~9通」がそれぞれ4割

を超え、合わせて8割以上を占める。また、送信メール数はそれよりやや少なく、「週に6通以下」が約6割、「1日に2~9通」が約3割となっている。

これをブロードバンド/ナローバンド別でみると、送受信メールともにブロードバンド利用者がナローバンド利用者に比べ、多数の電子メールをやり取りしていることがわかる。

登録メーリングリスト数に関して、利用者全体ではそれほど登録数は多くない

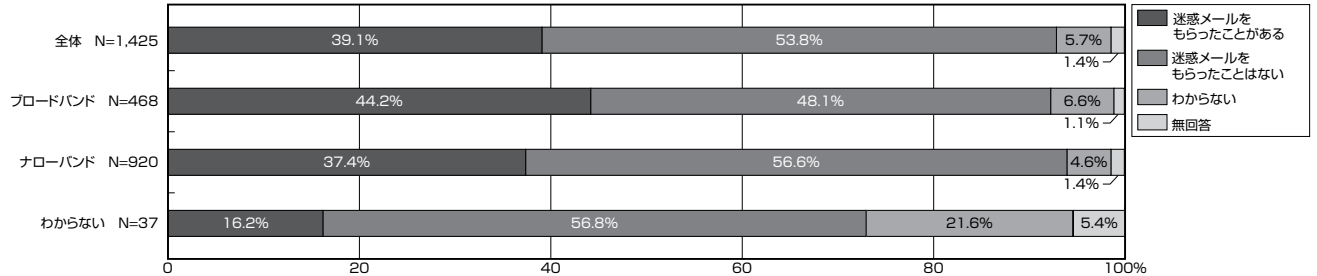
ものの34.1%がすでに登録していることになる。ここでもブロードバンド利用者はナローバンド利用者の登録率を上回っており、それぞれ38.7%と32.6%となっている。

利用サービス内容の結果からも明らかに、ブロードバンド利用者はナローバンド利用者に比べてインターネットの活用非常に積極的であるといえる。

電子メールの普及にともない注目されるのはいわゆる「迷惑メール」や「ウイルス感染メール」などの問題である。「迷

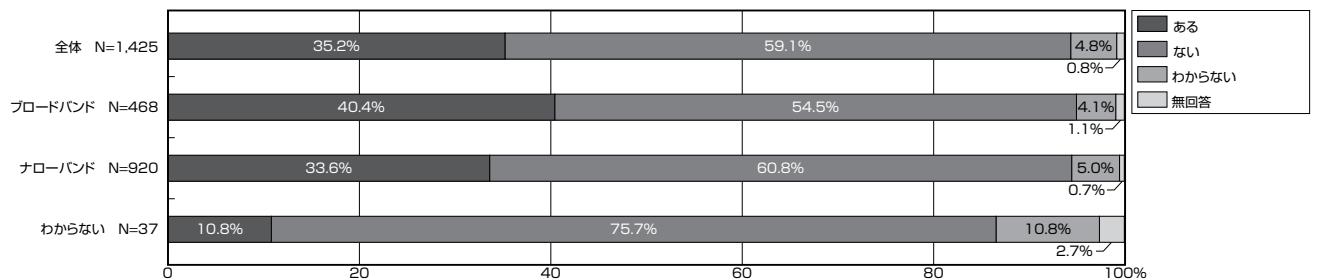
ブロードバンド & ナローバンド

資料1-2-33 ブロードバンド/ナローバンド別 迷惑メールの受信有無



© Access Media/impress,2002

資料1-2-34 ブロードバンド/ナローバンド別 ウイルス感染メールの受信経験有無



© Access Media/impress,2002

解説

「迷惑メール」の定義は受け取る側の捉え方によって大きく異なる。たとえばメーカーやお店から製品やサービスのDMを電子メールで受け取った場合、特典付きで得をしたと感じる人もいれば、どのような経緯で自分の所にメールが配信されたのか理由がわからず当惑する人もいる。ここでは回答者の主観でその有無を選択してもらった。「迷惑メール」を受け取ったことがあると回答したのはメール利用者全体で39.1%と昨年の22.1%と比べかなり

増加している（資料1-2-33）。ブロードバンド/ナローバンド別では電子メールの利用が活発なブロードバンド利用者が44.2%と高くなっている。

同様に「ウイルス感染メール」についてもその受信経験を聞いている。昨年までの調査結果からはインターネット個人利用者における迷惑行為の実害として最も多いのが電子メールから感染するコンピュータウイルスであることがわかっている。利用者全体でウイルス感染メールの

受信経験があるのは35.2%で、3人に1人は受け取ったことがあるという計算になる（資料1-2-34）。ここでもブロードバンド利用者は電子メールの利用頻度が高い分、ナローバンド利用者に比べ受信経験が多く、4割を超えている。

（矢野さよみ アクセスメディアインターナショナル株式会社）



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp